

家畜・家禽の健全育成を目指した免疫・微生物研究開発 プラットフォーム

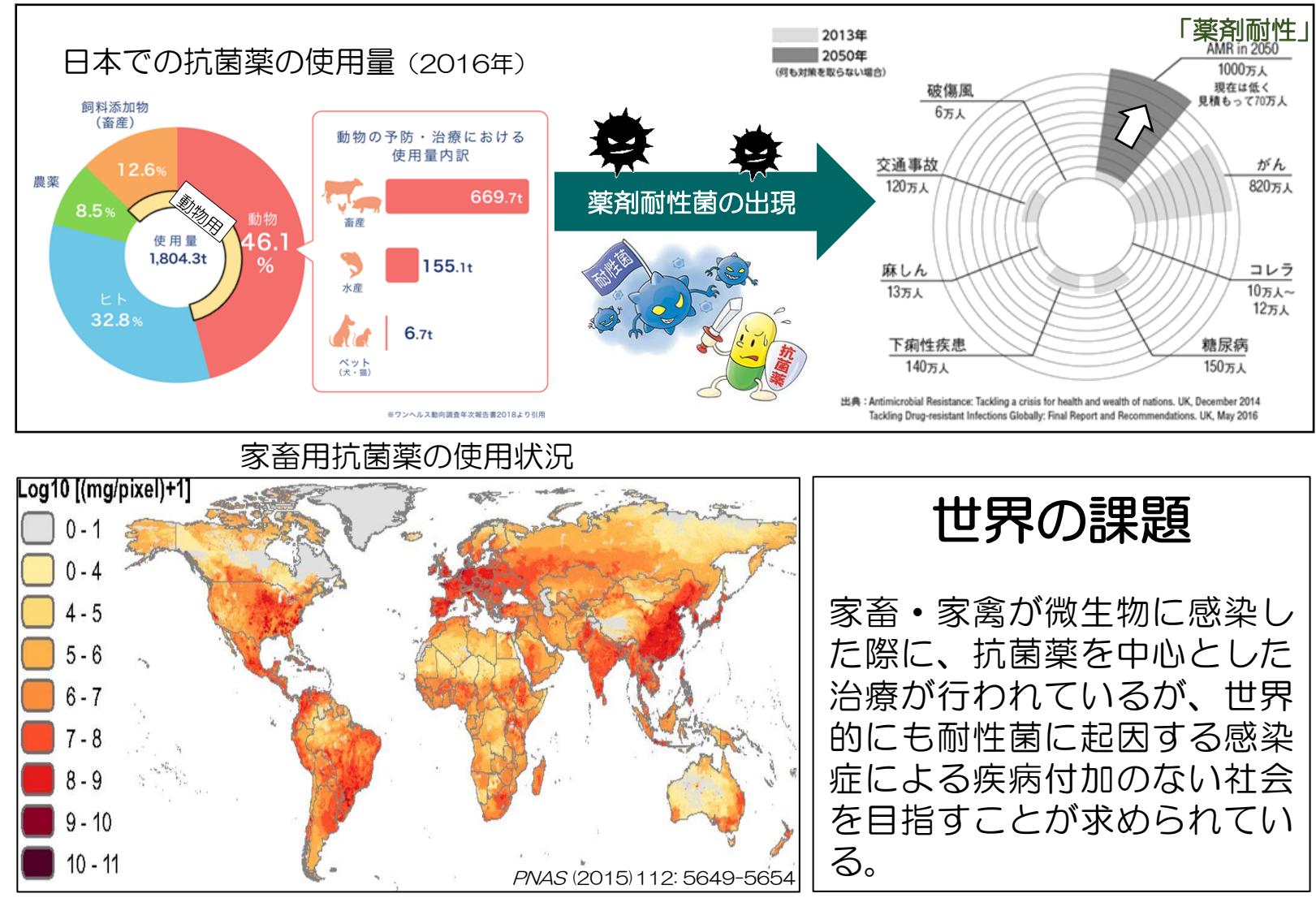
目的

家畜・家禽の健全育成を目指した免疫・微生物研究を通して、特に家畜・家禽の粘膜感染症制御を可能にする素材を社会実装することを目的とする。特に、薬剤耐性対策として、抗菌剤に代わる次世代の動物医薬品の開発とその普及を目指した活動を実施する。

内容

- (1) 家畜・家禽の健全育成を目的とした免疫・微生物製剤の実用化を念頭に置いたビジネスモデルの構築
- (2) 家畜・家禽の腸管免疫・腸内微生物のモニタリングおよび腸内デザインに関するビジネスモデルの構築
- (3) 家畜・家禽の腸内環境の健全化に向けた知財情報の調査及び知財戦略の策定
- (4) 研究成果等の情報発信及び新たなプラットフォーム会員の勧誘
- (5) その他「知」の集積と活用の場産学官連携協議会の活動への協力 等

抗菌薬が多用される今日の畜産業と薬剤耐性菌問題



シーズ例

子牛の下痢症を対象とした有用微生物叢移植の手順

健全育成牛（ドナー）



約100g
生理食塩水
約200mL

嫌気性を保ち迅速に

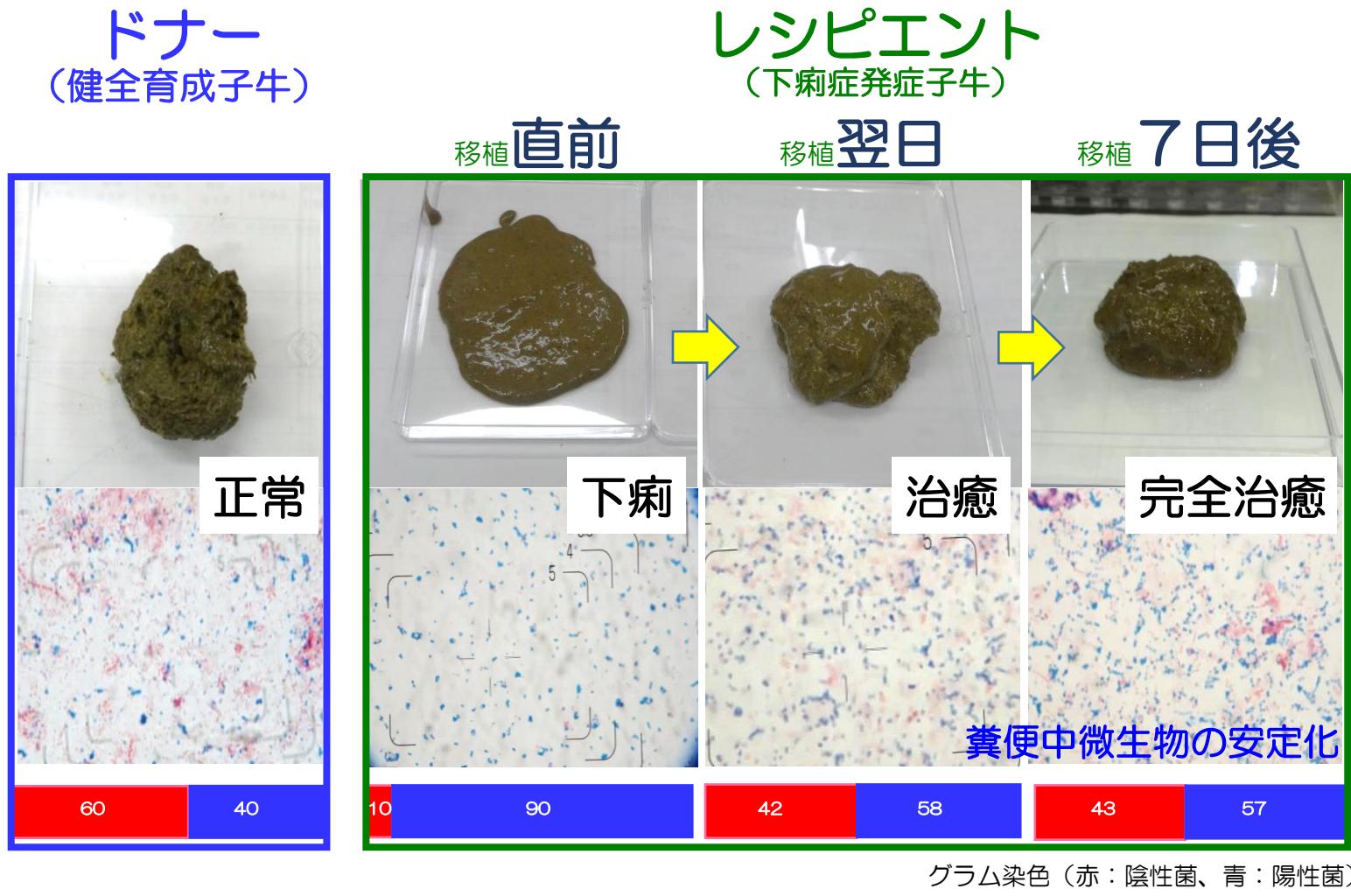
滅菌
ポリ袋

濾過

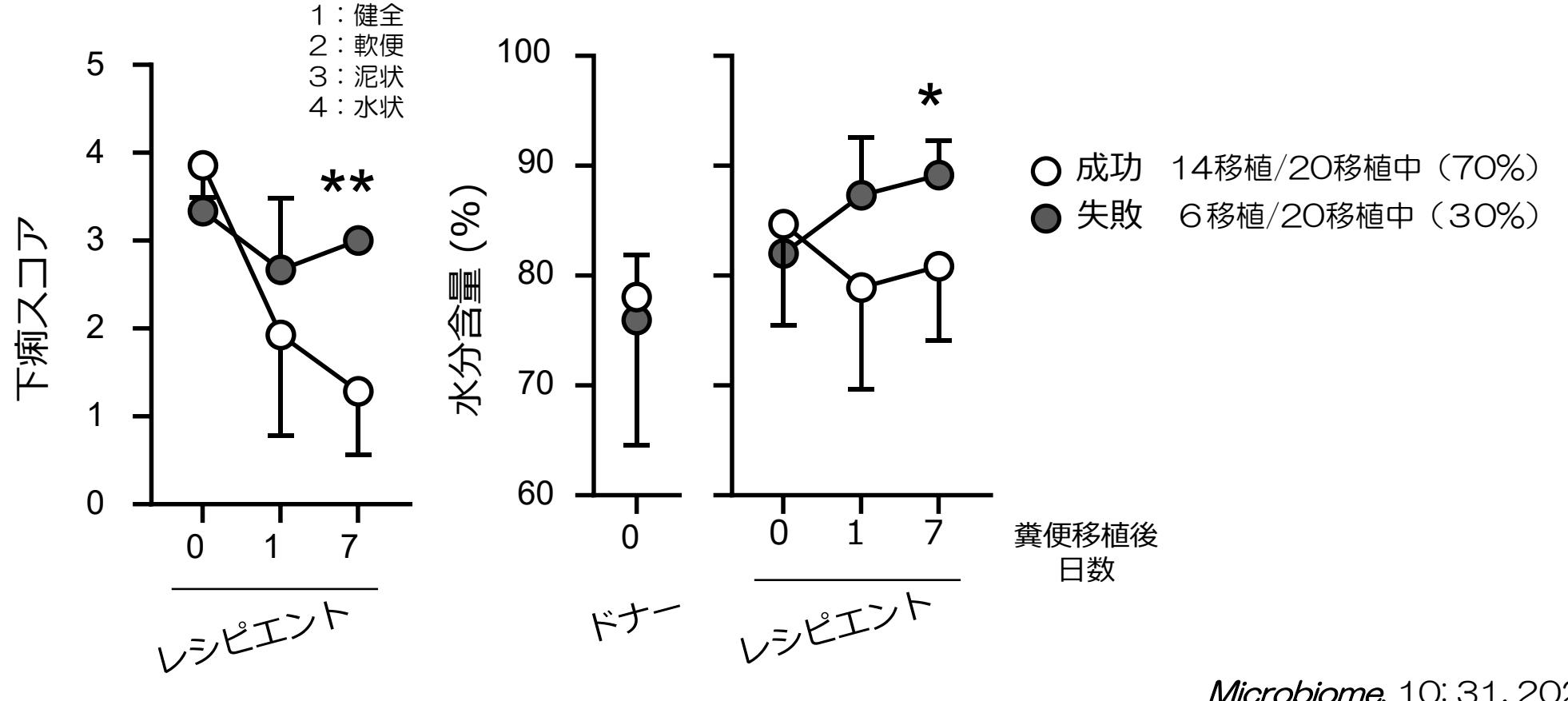


下痢症発症牛（レシピエント）

有用微生物叢移植の有効性



難治化した下痢症でも7割の確率で治癒可能

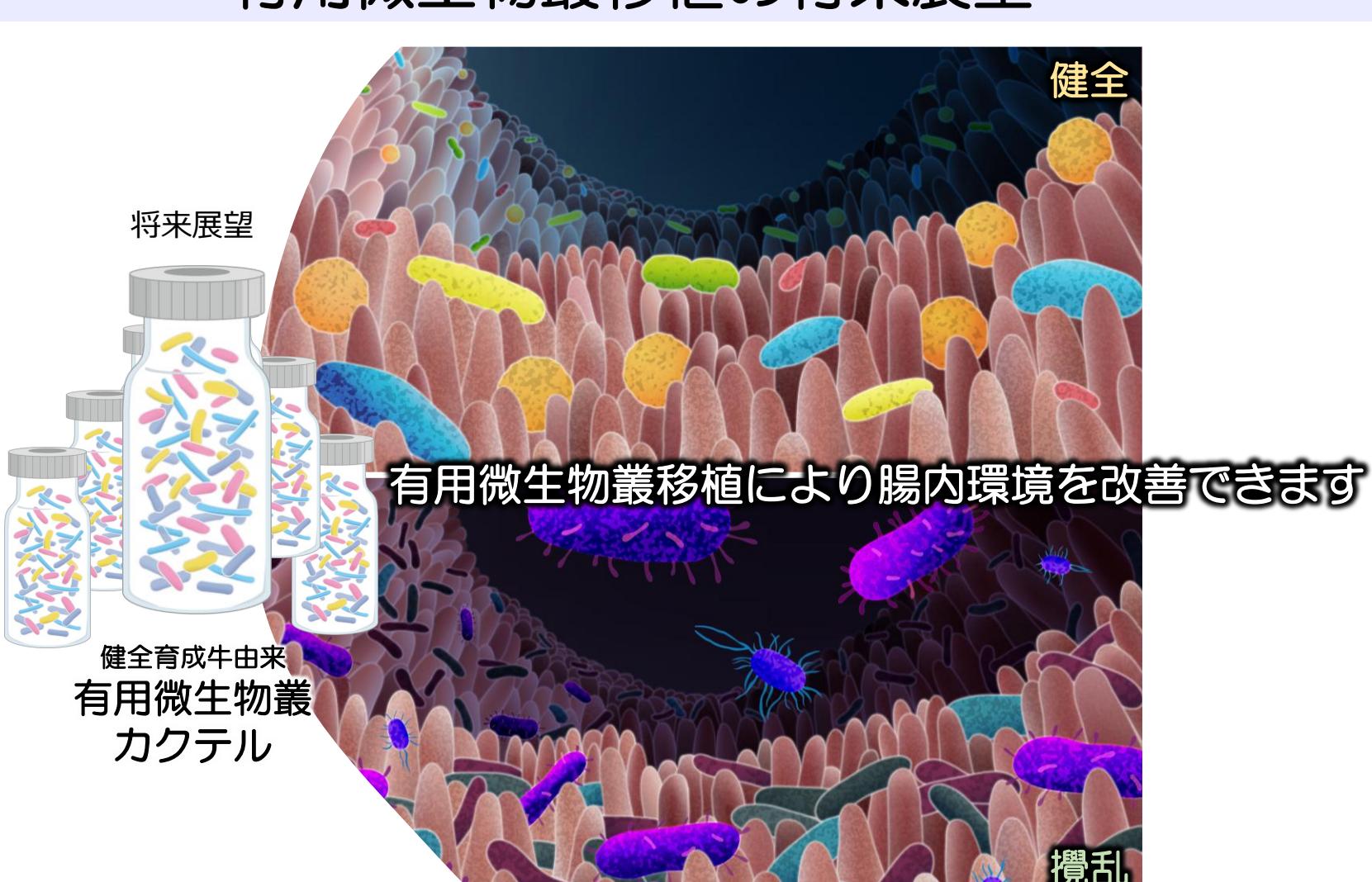


有用微生物叢移植の有効性に関するメカニズム解明

有用微生物叢移植により数日 (1-7日) 以内に腸内環境が健全化され下痢症が治癒



有用微生物叢移植の将来展望



プラットホームの将来展望

